

事業報告

<研修名>

平成30年度 第2回 大分県社会教育行政職員専門研修会

<開催日時>

平成31年1月23日(水) 10:00~16:00

<会場>

県立図書館 1階 第2・3研修室

<参加人数>

36名 (10市町20名 + 県教育委員会社会教育行政職員16名)

<研修趣旨>

県下の生涯学習・社会教育の一層の振興を図るために、事業遂行の中核的役割を果たす県及び市町村の社会教育行政職員等を対象に、その資質・能力の向上に資する研修を実施する。

<研修内容>

【研修1】説明 大分県社会教育委員会議による建議

「青少年の体験活動の充実・深化を図る社会教育行政のあり方について」

講師：大分県教育庁社会教育課 社会教育主事 秋吉 邦治

大分県社会教育委員会議による建議（H30.12）の概要説明が行われた。

（内容）

「社会を生き抜く力」を高めるための学習支援と人材育成について、青少年の体験活動の充実に向けて社会教育行政が目指すべき施策、①体験活動の有用性を分析したプログラムの開発提供 ②関係者への研修の提供 ③体験活動の機会拡充に資する教育環境の整備 について

【研修2】シンポジウム

「今後の社会教育行政における青少年の体験活動の方向性

～『社会を生き抜く力』を高める体験活動の充実に向けて～」

進行：学校・地域支援課 地域学習支援担当 主任社会教育主事 馬場 尚登

シンポジスト：大分県社会教育委員

大分大学教育学部 准教授 永田 誠 氏

大分海運株式会社 代表取締役社長 佐藤 公一 氏

宇佐市立八幡小学校 校長 榎本 徹 氏

- ・学校での体験活動の取組、青少年団体（ボーイスカウト大分県連盟）での体験活動の取組、津久見市内企業のキャリア教育における学校との連携についての報告が行われた。
- ・学校では「失敗を経験するプログラム」が組みにくい現状がある。困難を乗り越える力をつけるためには失敗を乗り越える体験が必要なことから、そのような場面を社会教育での体験活動で多く仕組むことが大切であるとの示唆があった。

【研修3】情報・意見交換

「大分県における青少年の体験活動の現状と課題」

進行：学校・地域支援課 地域学習支援担当 主任社会教育主事 馬場 尚登

助言：大分大学教育学部 准教授 永田 誠 氏

大分大学高等教育開発センター 教授 岡田 正彦 氏

- ・シンポジウムの感想の出し合い、各所属における体験活動事業の情報交換を5名～6名の小グループごとに行った。
- ・助言者から、従前から行っているプログラム等でも内容を見直し、子供自身に考えさせる場面を増やしたり、時間にゆとりを持たせる、子供にとって役立つどんな力をつけるかの焦点化等を行ったりすべきとの示唆があった。

<当日の様子(写真)>

【研修1】説明



【研修2】シンポジウム



【研修3】情報・意見交換



<参加者感想>

- ・ジュニアリーダーを担当していて学校の部活が土日もありネックになっている。
- ・社会教育ならではの課題、悩みを情報共有でき充実した研修となった。
- ・事業の目的設定が不明瞭なことが多い。ここをしっかりとしないと「体験活動」をさせるだけになる。体験活動を通して何をするのかしっかりと考えたい。
- ・大変勉強になり、今後の業務の参考になると思う。
- ・最初に建議の概要説明があったので、今、何が課題で、その改善にどう取り組めばよいのか大まかに理解できたのでその後のシンポジウムにも入りやすかったと思う。
- ・自分の事業の改善に役立つヒントをたくさんもらえた。
- ・もう一歩掘り下げた話し合いがしたかった。例えば学校と社会教育の連携、学校の実情、公民館の実情などを出す、または聞く時間が足りないと感じた。
- ・情報交換をできる時間をもっとたくさんとりたかった。